

# 行政視察報告書

|  |
|--|
| 1. 委員会または会派等<br>都市環境経済委員会  |
| 2. 視察期間<br>令和4年10月31日  |
| 3. 視察先<br>長崎県長崎市   |
| 4. 視察項目<br>1. 長崎×若者プロジェクト（ながさき若者会議）について<br>2. 住みよかプロジェクトについて               |
| 5. 参加者<br>〔委員（議員）〕 森竜子、三宅智加子、江上しほり、城後徳太郎<br>山口雅夫、大野哲也、古庄和秀、山田貴正            |
| 〔同行〕 なし  |
| 〔随行〕 事務局 松尾英樹  |
| 6. 考察<br>別紙のとおり  |
| 以上のとおり、報告いたします。<br><br>令和4年11月7日<br><br>報告者 <u>森 竜 子</u><br><br>大牟田市議会議長 殿 |

## 【別紙】

### 6. 考察

■ 長崎市 【人口】 403,628 人（令和4年3月末時点） 【面積】 405.86 k m<sup>2</sup>

#### ■ 視察事項

1. 長崎×若者プロジェクト（ながさき若者会議）について
2. 住みよかプロジェクトについて

#### ■ 長崎市の概要

長崎県の南西部に位置。1,571年に貿易港として開港し、江戸時代には出島での貿易を通じて海外文化の窓口として栄えた。その後は石炭産業や造船などの軍事工業都市として発展し、現在も三菱重工の造船所や工場などが立地している。二つの世界遺産、グラバー園などの観光名所、坂や長崎くんちなど独自の文化と景観を有し、年間700万人が訪れる観光地でもある。

### 1. 長崎×若者プロジェクト（ながさき若者会議）について

#### ■ 長崎×若者プロジェクト（ながさき若者会議）の位置づけ

長崎市では、特に若い世代を意識した中で、「選ばれるまちになる」ことをテーマに掲げ、六つの重点プロジェクト（令和元年度～4年度）に取り組んでいる。

その一つである「長崎×若者プロジェクト」では、「若者が楽しむことができる場」と「若者がチャレンジできる場」をつくることで、「若者が楽しめ、活躍できるまち」とすることに取り組んでいる。

#### ■ ながさき若者会議の概要

・「ながさき若者会議」については、「若者がチャレンジできる場（若者が実現したいアイデアや企画にチャレンジできる「仕組み」）として令和2年度に市が参加者を募集して立ち上げ、運営をスタートしている。

・「ながさき若者会議」への参加条件は次の3つである。

- ①15歳以上34歳以下の者
- ②積極的に会議に参加できる者
- ③長崎市内に在住、在勤又は在学している者並びに長崎にゆかりのある者

・令和4年9月時点で約40名の若者が参加している。

#### ■ これまでの動き

2020年8月からスタートし、やりたいことをあげ、アイデアブラッシュアップを経て（ポジティブアプローチ）、各プロジェクト（テーマ）に分けて年度末に「おひろめ会」（プレゼンテーション）を実施している。

2年目（2021年度）は、コロナ禍でオンラインも活用しながら、必要なときには顔を合わせて全体会議を繰り返した。11月に開催された「長崎開港フェスタ450」に

若者もブースをつくって参加した。その後、ホームページも立ち上げて活動を顕在化していった。プロジェクト活動も進行している。

## ■ 若者会議の活動（進行中のプロジェクト）

### ・ 8. 9プロジェクト

8月9日の黙祷を忘れないためのリマインダーの展開であり、LINE登録をすると、長崎原爆投下時間直前に黙祷のお知らせ通知が届く。賛同してくれる企業（ホテル）と、宿泊者に折り鶴を折ってもらう「折り鶴のピースプロジェクト」を共同で実施するなど、クラウドファンディングも実施している。

### ・ あいらしくプロジェクト

若者の自己肯定感が低くなっている。お互いのいいところを知って高め合っていく活動。小中学校に講師として出向き、青少年の育成にも取り組んでいる。

### ・ みんなの居場所GOTOKU（※大牟田市役所職員見学）

高校生が使えるフリースペース。地域の中に居場所をつくっていく。メンバーに女性のお坊さんがおり、交流の場をつくった。

### ・ モルック長崎

世界大会があるスポーツで、メンバーの1人が提案して実現した。イベントで活用したり、福祉施設に出向たりしている。高齢者でも気軽に遊べてボケ防止になる。地域交流にもつながる。

### ・ ナガサキ女子

長崎で活躍する魅力的な女性を発信しながら、女性活躍の場を増やす活動を行っている。

### ・ 小さな移動図書館テクトコ

どこでも簡単に気軽にテントを張って、子供たちが本を読める居場所作りを行っている。

## ■ ながさき若者会議のあり方（若者のニーズ等）の整理

若者と話しながら、改めて振り返って整理した。

### 交流

いろんな人の生き方や、仕事、価値観を知りたい／気軽に話せる、いろんなことを一緒に考える仲間が欲しい

### 学び

様々な人と触れ合う中で、新しい知識や情報、刺激を得たい／学び続けることを大切にして、常に新しいことをチャレンジしたい

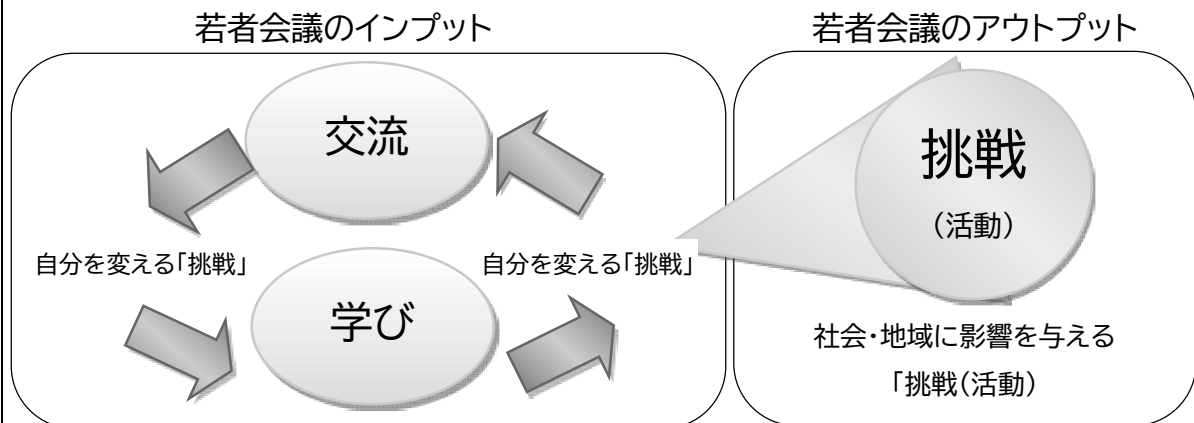
### 挑戦

自分を変える挑戦をしたい／新しい自分（一面、役割）にチャレンジしたい／社会に影響を与える挑戦をしたい／社会課題に対してアプローチをする

## 自己成長・自己実現

「交流・学び・挑戦」を通して、これまでの自分にはない新たな知識や能力、ネットワークなどを得ることで「自己成長」するとともに、自分一人では難しかった企画を成功させ「自己実現」を果たすことなどにより、日々の暮らしやこれからの人生を豊かにしていきたい。

世代も年齢も違う若者が出会い話をすると、いろんな人の考え方に触れそこから学びが生まれる。そして、少しずつお互い刺激を受けて、チャレンジの意識が高まり挑戦に繋がっていく。目指すべきは「自己成長・自己実現」である。



若者会議で一番大事なのは、学び・交流の中で「挑戦の土壌」をつくっていくことである、と結論づけた。

### ■ ながさき若者会議の現在の具体的な取組内容・成果

#### ①若者が実現したいことへの挑戦

- ・コーディネーターが企画立案を支援し、10以上の活動が生まれた。
- ・地域・社会に貢献する活動を継続している。

#### ②交流・学びの創出

- ・全体会議を月1回開催し、SNSやオンライン会議システムを活用している。

#### ③活動等の発信・顕在化

- ・ホームページの構築、「長崎開港フェスタ 450」出展など、活動を顕在化する。

#### ④運営体制の構築・外部との連携

- ・参加者有志で「ながさき若者会議運営プロジェクト」を立ち上げ、運営体制の安定化推進を図る。
- ・企業とのコラボレーション、クラウドファンディングを活用した資金の確保など、多様な関係者との協力しながら活動を活性化する。

### ■ ながさき若者会議のあり方（成果等）の整理

何かにチャレンジしたい若者たちの受け皿となり、同世代や様々な主体との交流や学び合いを通して、若者たちの「はじめの一步」を踏み出すきっかけをつくとともに、参加者の本格的な市民活動や企業・創業へのステップアップを促進した。

## ■ ながさき若者会議の自律的で持続可能な運営体制の検討

行政（コーディネーター）主体の運営期 令和3年度（2021年度）まで  
長崎市と、運営委託を受けた「コーディネーター」が中心の活動。

### ➡ 若者主体の運営の始動期 令和4年度（本年度）

コアメンバーで組織する「運営プロジェクト」任意団体化  
若者たち主体で運営。予算管理を行い活動を拡大化。  
財源確保も実行（イベント出店、クラウドファンディング等）。  
長崎市・コーディネーターは支援。

### ➡ 若者と行政の協働期 令和5年度（2023年度）以降

コーディネーターの運営支援委託は終了。

若者と行政のそれぞれの強みを活かした運営体制を目指す。

—「運営プロジェクト」が企画・運営する月1回程度の全体会議を共催  
（市は場の確保や講師の招聘などを行う。）

—情報発信や会議運営に関する相談対応、関係団体の紹介等

—若者の自由な活動や発信については「運営プロジェクト」が支援・促進

## ■ コーディネーター 岩本さん（32歳）

若者会議の対象年齢と同じ。これまでに、空き家を活用してコミュニティスペースを運営したりなどといった市民活動をしてきた。同世代の県外流出数が多く、活動する場所がない、働く場所がないという課題を感じており、長崎市のこの取組にコーディネーターとして参画することとなった。若者自身がやりたいことをやる、ということが会議の中心になるよう心掛けている。来年度以降、若者が独立していけるようサポートしていきたい。

## ■ 委員からの主な質疑と回答

### 問：アイデアからプロジェクト立ち上げまでの過程

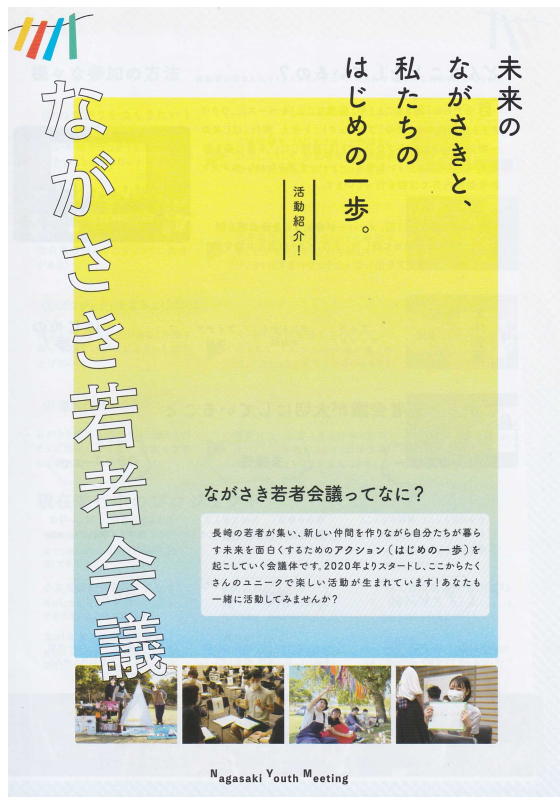
初年度メンバーは7回ワークショップを実施し、八つ程大きなテーマに分け、個人が興味のあるチームに入り、その中でどんなことができるのか、アイデアを企画書に落とし込んでいった。年度末に、市長・一般の方も交えた100名規模の「おひろめ会」を実施。1年目は内容を考える期間とし、2年目にチャレンジを実行している。

### 問：行政の立ち位置

立ち上げ当時、枠組みは見えていなかった。特に「若者会議とはどういう会議体なのか」を議論した。結果、自分たちがやりたいことをやってほしい、という方向性にした。極力“行政らしさ”を出さない付き合いを心掛けている。

### 問：多くの若者に参加してもらうための呼びかけ（PR）

若者の目を引くようなチラシを作成し、SNSで拡散した。70名の応募から書類選考で55名を決定し、応募した理由、やってみたいこと、今の長崎市について思うことから判断した。



**問：若者が主体的に勧めていくための工夫は**

行政が関わり過ぎないことで、自主性を引き出している。

**問：全体会議の中でのゲストはどんな方が来る？どうやって選んでいる**

初年度は「先輩の話を聞こう」というテーマで、電通出身コピーライター、地域おこし協力隊等にきていただいた。若者から出てきたアイデアをもとに、話を聞いたら参考になる方を岩本さんがブッキングした。

**問：若者会議が大切にしている「つながり」の現状は**

全国若者サミットに出場したので、全国規模でのつながりもできてきた。地域や企業とのつながりもでき、祭りにも呼ばれるようになった。

**問：プロジェクト完了までの期間とプロジェクト成果物の活用方法は**

会議の中で生まれたプロジェクトには、特にゴールは設けていない。長崎市から指示することはない。プロジェクトの中で「教育現場とつないでほしい」「福祉現場とつないでほしい」等の要望が出れば対応していく。やりたいことをやってもいいが、それが地域のプラスになっているか、という視点は失わないようレクチャーしている。

**問：15歳以上34歳以下とした理由は**

「若年者雇用促進法」が上限を35歳未満としているので、それを参考した。学生と社会人がバランスよく交流してもらおうという点を考慮した。

**問：起業・創業の支援の具体例は**

現時点ではまだ起業・創業には至っていない。メンバーに起業されている方もいるので、起業にあたっての知識の共有などといった交流は生まれている。

**問：適切な規模はどれくらいを想定している**

現在は全体で約40名で、あまり大規模になると若者同士の交流も難しくなる。今はコーディネーターが事務連絡や調整を行っているが、今後はメンバーが自分たちで行う。適正な人数は若者自身で決めていくことと考えている。

**問：今後メンバーの追加は？再度選考をするのか**

メンバー募集自体も若者の活動次第で、今後若者たちが決めていくことになる。

**問：実際にイベント等をする際、若者会議参加者以外も参加できるのか**

基本的には、若者会議のメンバーで活動を一緒にやっているが、今後は、知人が見学に来て参加していく等といったいろんな参加の形もあるかもしれない。

**問：いつでもだれでも集える拠点も必要ではないか**

オンライン会議はコーディネーターを介して参加を呼び掛けて随時行っている。市が会場を借りてやる場合もある。当初は部室のような場所を準備することも考えたが費用がかかってしまう。現状そこまでは至っていない。

**問：若者の発想をつぶさないよう気を付けていることはあるか**

裕福な自治体では、1回参加すると交通費が支給されたり、プロジェクトに幾らか渡す、という事例があるが、支給がなくなるとやめる。お金を渡すと市からの“依頼”となり、一度やりはじめたことはすぐ潰すことはできないといった“縛り”が出てくるので、お金を渡すことはしないことにした。

**問：大牟田市はスタートしたばかり。アドバイスはあるか**

若者を集めると、突拍子もない意見や要望が出てくることもある。普通だったら「それは無理」というところを一旦飲み込んで寄り添う、ということを重視した。

行政的には何が生まれるのか、議会にどう報告するのか、といったところに注視しがちだが、普段だったら数値化しない若者たちの「がんばり」を見て、後押しする目線で見ただけだと助かる。

**問：庁内での連携は**

重点プロジェクトとしては本年度末が一つの区切り。向こう3年くらいは若者たちと現在の部署でつながっていこうと考えている。

**■所感**

若者は非常に敏感であり、「真摯に向き合ってくれているか」をよく見ているという長崎市の体験談は、とても参考になった。いかに行政らしさを出さずに自由に活動してもらえるかが重要であり、若者のやる気を損ねないよう丁寧に寄り添う姿勢が必要であると感じた。

実施中のプロジェクトの中では、「モルック長崎」は気軽に始められて、高齢化率の高い本市においても地域交流や世代間交流にも活用できそうであると感じた。また「小さな移動図書館テクトコ」も、子供だけに限らず、大人も一緒に屋外で本を読んだりと言った楽しい空間づくりができれば非常に楽しそうだと感じた。



## 2. 住みよかプロジェクトについて

### 住よかプロジェクト

「長崎市によりよい住まいを」

#### ■事業目的

長崎市では若年層の転出超過に歯止めをかけるため、「若い世代に選ばれる魅力的なまち」を目指す。

令和元年度より新たな「6つのプロジェクト」を推進している。

「住よかプロジェクト」は、若者や子育て世帯の市外流出の抑制と市内流入を促進するため住宅供給の観点から住みやすさを改善し、「若い世代に選ばれる魅力的なまち」を目指す。

#### 1 「住みよかプロジェクト」について



#### ■事業内容

##### 1 住みよかプロジェクトについて

若者や子育て世帯の住宅に関する現状と問題を把握し、取組の方向性を決め、受託整備のイメージを出し、多くの関係者と協力しライフスタイルにあった住まいの選択できる環境整備を整える。



## 2 市営住宅での主な取組について

市営住宅を活用した大学生入居社会実験をとして、地元大学と連携して、市営住宅の空き室を活用しながら、若い世代に臨まれる住まいや、地域と若者が関わることで地域コミュニティーの活性化の可能性を検証している。

また、新規就労者、移住者への市営住宅定期借家を行い、建て替えなどの準備のための空き家を使って、新規就労者や、移住者に定期で提供を行っている。加えて、子育て世帯向け住戸改善を行い、市内各所の市営住宅に子育て世帯が暮らしやすい住戸を整備している。

## 3 住みよかプロジェクト協力認定制度について

住みよかプロジェクトは、住宅供給の観点から若い世代に選ばれるまちを実現するために取り組むプロジェクトで、若い世代が自分のライフスタイルに合わせて住まいを選択できる住宅環境として、産学官金労言士や市民など多くの方々と連携し整えている。

協力認定制度は、連携を進める取組として、若者・子育て世帯等の住環境を向上させるため自らが主体となって、又は市と協働して実施する事業を認定するもので、当事者として住みよかプロジェクトに取り組んでいただける方を市長が認定する仕組みである。

### ■認定の対象となる事業

仕組みづくりや技術の研究・検討

例えば、団地内の空き地空き家の流通の仕組みづくり

居住環境の向上のための住まいの整備

例えば、古い空き家を活用した若者向けの住戸リノベ事業

暮らしを支える取組み

例えば、子育て中の方へのサポートの場の提供

情報発信

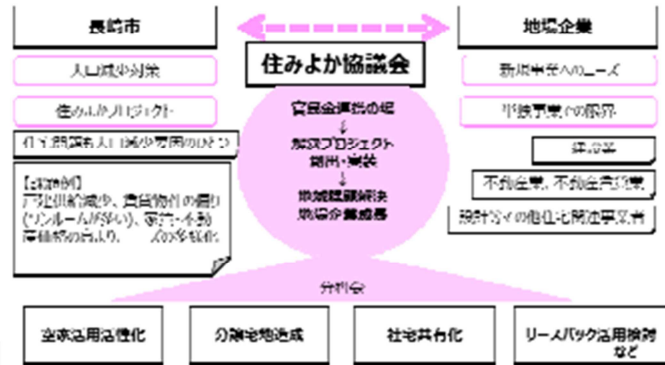
例えば、住みよかプロジェクトのホームページ作成

### 協力認定事業について

住みよか協議会を設置し、地場企業主体で住宅関連の地域課題解決に取り組み、仕組みづくりの場の設置を行っている。

### 目指す効果

- 市場・市民ニーズに応じた住宅を生み出す仕組み作り
- 不動産の未稼働化の未然防止や活用活性化を通じて、住宅供給による住宅関連の地域課題解決を図る
- 地場企業の新たな事業分野開拓、事業拡大



これまでに認定した事業

#### ○住みよか協議会

(地場企業主体で住宅関連の地域課題解決に取り組む仕組みづくりの場の設置)

行政が持つ人口動向や市民ニーズ、行政施策の方向性などと、地場企業のソリューションが交わる協議会等を設置し、長崎市の住環境改善と民間事業拡大の両立を目的とした新規プロジェクトの創出を目指す。また、住環境改善による人口減少対策への寄与を目指す。

(例)社宅共有、空家活用活性化、リースバック等。

実施者：(株)十八親和銀行

#### ○中心部等での若年・子育て世帯向け賃貸住宅の供給

若い世代向けに広い賃貸住宅が長崎市中心部などで少ない状況にあることから、利便性の高い電車を利用できる圏域を中心に、特に子育てしやすい広さの賃貸住宅を適正価格で若年・子育て世帯等向けに供給する。

実施者：(株)福德不動産

#### ○SDGsな子育て向け戸建住宅の供給

新たな分譲地の供給が少ない中で、子育て世帯の戸建住宅希望は依然高い状況にあることから、市内の空き地や空き家を掘り起こし、既存宅地の再利用を図りながら、自然エネルギーをうまく生かした子育て世帯が望む暮らしが実現できる戸建住宅を供給する。

実施者：(株)谷川建設

#### ○空き家の若者向けリノベーションによる供給

社会問題化している空き家の課題を解決するため、古い建物が再び利用され、古いものだけが持ち得る輝き、時を重ねたものにしかない価値などを多くの人に感じて頂き、消費者が求めたくなるように古い建物をリノベーションして供給する。

実施者：(有)明生興産

○若い世代の住まい、ライフスタイルをアップデートする情報発信

1. ポータルサイトを作成し、「住みよかプロジェクト」で取り組まれた住宅など、市内の若者が好む住まいの情報を発信する。
2. SNSを活用して、若者の視点で若者に広く情報発信する。
3. メディアセンターを中心に、周辺地域のコミュニティの核となる場所にて、ライフスタイルの提案や交流・情報発信を行う。

実施者：(株)コミュニティメディア 出島メディアセンター

○亀山社中スタートアップ（亀スタ）

～起業家支援シェアハウス～

起業家を育成するための教育や機会を提供するとともに、起業に興味がある若者が起業に専念できる環境や住みながら働ける場、グローバルにつながる環境で共同生活しながら起業支援を受けられるシェアハウスを設置し、市内各所に拡大していく。

実施者：株式会社イグアス

#### ■事業日程

ライフスタイルに合わせてステップアップしていく、2019年から4年間で形を作り市民移住者などにつなげたい。

- 住宅供給（譲与型）
- 情報発信（紙・SNS）
- 相談・支援（サポートチーム）

実証実験

1. 若者が好む住宅とは
2. 若者が地域と関わることでコミュニティ活性化の可能性を検証する

新規就労：若い世代で新たに働かれる方への市営住宅（期限付き）入居制度

若い世代が働きたくなる市営住宅の整備

年間300戸住宅整備をしている。

#### ■委員からの主な質疑と回答

**問：住みよかプロジェクトは官民連携しながら、整備を推進していくことを掲げられているが、具体的にはどのように連携しているのか。また、官民連携を図る上で、課題があるか。**

住みよかプロジェクトは補助金がなくなっても、ビジネスとして成り立つように市民団体と連携し、取組を行っている。

**問：住宅と便利な施設を合築させ、生活しやすい住環境の供給を目指すとするが、具体的にはどんな事例があるのか。**

長崎市営住宅 野母住宅 蒼い海を望む、市営住宅など

建物の概要：多様な間取りで、子育て世帯はもちろんU I Jターンや新規就労者など、幅広い暮らしに応え、光回線引込みも可能で、上下水道完備、駐車場、駐輪場も完備しており、近くにはお買い物や教育、医療、地域コミュニティーなど日々の生活に欠かすことのできない利便施設が野母住宅の生活圏内（半径500m以内）に点在しており、この場所に魅せられ五感を満たす野母崎での暮らしがある。

## ■所感

長崎市では、子育て世帯向けに住戸改善を行った市営住宅の期限付き入居募集を行い、市営住宅をリノベーションし、子育て世帯が住みやすくしている取組はとても参考になった。

また、令和3年度からは「住みよかプロジェクト」の一環として、築30年以上経つ市営住宅の一部の住戸を、子育て世帯の方が暮らしやすいように、子育て世帯向け住戸改善（リノベーション）され、ダイニングキッチンに隣接する和室をフローリング化して一室にし、開放感のあるリビングダイニングキッチンになっており、若い世代には魅力的な物件になっている。

大牟田市にも築年数が経過した古い市営住宅があることから、若い世代が住みたいと思える、住宅に生まれ変わらせることは今後の大牟田には必要だと分かった。

問題や課題だと思える古い住宅が、若者が住みやすく好むリノベーションを行えば、魅力に変わりその物件の価値を高めることにつながることを学びました。

また、一部の住宅では対面キッチンを採用し、キッチンや洗面台、お風呂には給湯を完備されており、さらに、カメラ付きインターホンを設置し防犯性にも対応しているようだ。大牟田においても、年数の経った市営住宅をリノベーションによって生まれ変わらせ、若い世代の市外流出を抑制するため、住宅供給の観点から政策を立案し、若い世代が住みやすいまちにしていく取組を早急に対応してなければならぬと感じた。